

パブリックコメントの実施結果及び「県警察の機能強化」の策定について

1 要旨・目的

パブリックコメントの実施結果等を踏まえ、「県警察の機能強化」を策定するもの

2 パブリックコメントの結果

(1) 実施期間

令和7年6月30日（月）から同年7月29日（火）までの間

(2) 意見の件数

71件（44人）

(3) 寄せられた主な意見と県警察の考え方

別紙1のとおり

【概略】

番号	項目
1～13	機能強化の必要性について ボランティアや関係機関との連携、優秀な人材確保、勤務環境の改善等に関する意見
14～45	機能強化の方向性について 老朽化した施設の改善、地域に根差した交番・駐在所の重要性、警察署の再編等に関する意見
46～54	機能強化により期待される効果について 業務の合理化、街頭活動の強化、働きやすい職場環境づくり等に関する意見
55～68	その他 業務委託、人材育成方策、防犯カメラの増設、治安対策等に関する意見

3 「県警察の機能強化」策定

別紙2、3のとおり

4 今後の方針

- パブリックコメントの結果及び「県警察の機能強化」策定について県民へ公表
- 具体的な機能強化計画（案）について検討

「県警察の機能強化」（案）に関する意見募集の実施結果

1 意見募集の期間及び結果

募集期間	令和7年6月30日（月）～7月29日（火）
意見総数	71件(44人)

2 寄せられたご意見と県警察の考え方

(1) 機能強化の必要性について

	寄せられたご意見	ご意見に対する県警察の考え方	関連頁
1	刑法犯認知件数や交通事故発生件数はなぜ減少傾向にあるのか。	刑法犯認知件数や交通事故発生件数がピーク時から大幅に減少したのは、「減らそう犯罪」広島県民総ぐるみ運動や広島県交通安全実施計画等をはじめとする官民一体となった取組の結果と考えております。	1 ～ 3
2	人口減少や生活圏の拡大等の社会情勢の変化により、社会とのつながりが希薄になり、詐欺被害が増えたように感じる。	しかしながら、近年では、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行による人流の増加等に伴い、刑法犯認知件数及び交通事故発生件数ともに増加に転じており、さらには、サイバー犯罪や匿名・流動型犯罪グループの台頭等、新たな治安課題に直面するなど、治安情勢は依然として厳しい状況にあります。	
3	県民の安全・安心の確保は警察の専管事項ではなく、国・県・市町村といった行政に共通する課題である。刑法犯認知件数が減少した背景にある「減らそう犯罪」広島県民総ぐるみ運動の基本となる自助・公助・共助の仕組みをより一層推進することが必要である。	ご意見については参考とさせていただき、本指針に基づいた機能強化と併せ、引き続き、地域ボランティア、関係団体、事業者等との連携を一層深めた警察活動を展開することにより、県民の皆様の平穏な暮らしの確保に努めてまいります。	
4	県民にとって警察に期待することは日頃からの支え（安心）であり、不安に真摯に向き合ってくれる姿である。		
5	比較的治安が悪い地域については、治安維持のために商店街の会員等に協力してもらい、広島県警と協働していると示すような腕章等を身に着けた上で、見回りを行うボランティアを編成してはどうか。		
6	外国人の居住が増加していく中で、多文化共生に向けた取組が求められる。警察と行政が連絡・協議する機会を設けていく必要があるのではないか。	多文化共生に向けた取組について、広島県では「外国人材の受入・共生対策プロジェクト・チーム」を設置しており、外国人材が県内企業で活躍し、地域社会の一員として安心して暮らせるよう、県警察も一体となって各種施策を実施しているところです。	2

7	警察官は休みが少ない、体力を人一倍使うというイメージがある。夜間等は、対応する警察官の人数が限られると思われるが、そういった勤務環境が人手不足の背景にあるのではないか。	<p>県警察では、「広島県警察ワークライフバランス等の推進のための行動計画」を策定し、男女問わず、全職員のワークライフバランスの実現に向けて、休暇取得の推進と能力を最大限に発揮できる働きやすい職場づくりに取り組んでいるところ。</p> <p>署員数の少ない警察署では夜間・休日の体制が脆弱であるという課題もあり、今回の機能強化では、業務負担の較差を是正し、人員配置の最適化を行うことや、警察署の再編によるスケールメリットを生かした体制の確保を掲げております。</p> <p>県民の皆様が安全・安心に暮らせる広島県の実現のためにも、警察職員が魅力ある職業として選択されるよう、より働きやすい職場づくりに引き続き取り組んでまいります。</p>	4 ～ 6
8	優秀な人材確保について、全体の給料を底上げしなければ若い人だけでなくベテランが辞めてしまうのではないか。		
9	勤務について、当番日の時間が24時間以上になるところを改善できないのか。		
10	緊急に呼び出して対応させると、災害時においては職員を危険にさらすことになるのではないか。		
11	制度や機能の整備だけでなく、実際に第一線で活動されている方々の勤務環境の整備等も検討していただきたい。		
12	現状と課題について、課題解決のためには「人」「モノ」「お金」が必要であるが、絶対量が不足する中で人の確保や予算獲得の見通しはできているのか。	課題解決のための具体的な機能強化計画は、今回のパブリックコメントで寄せられた意見を参考とし、必要な人員・予算についても検討を進めてまいります。	4 ～ 6
13	優秀な人材を確保するには、従来の採用試験に加え、特別な採用枠の新設や経験者の採用を進めるべきではないか。	<p>県警察ではこれまで、柔道・剣道といった術科指導員の育成を目的とした採用枠のほか、今年度からサイバー犯罪対策のため、捜査・調査研究に従事するサイバー犯罪捜査官等、専門的な技能を持つ職員の採用試験も実施しております。</p> <p>また、今年度から採用試験の受験可能年齢の上限を採用時 35 歳まで引き上げる、加点対象資格を広げるなど、受験志望者の確保に努めているところです。</p> <p>経験者の採用については、常時勤務する警察官の休暇取得等で欠員が生じた場合に、代替として期間を限定して採用する代替採用制度があります。</p>	6

(2) 機能強化の方向性について

	寄せられたご意見	ご意見に対する県警察の考え方	関連頁
14	施設の老朽化については、近所の交番の近くを通る度に感じており、もう少しきれいな施設・環境で働いてもらえたらと思う。しかし、交番が集約されるのは困るので、きれいな施設に複数の警察官の方が勤務できるのが理想だ。	警察施設については、平成 29 年に策定した「警察施設整備方針」に基づき、施設に係る最適化・耐震化・長寿命化を進めてきたところです。 なお、交番・駐在所については、令和 7 年 4 月時点で半数以上が耐用年数を経過しているところ、施設の老朽実態や、他の緊急性の高い施設整備とのバランス等を総合的に検討し、計画的に整備を進めているところです。	7 ～ 8
15	警察施設の中には階段しか無いところもあり、不便なもの、すぐの建て替えは難しいと思われるので大切に維持管理してほしい。	また、老朽実態を勘案し、建て替えのみならず改修による長寿命化を図るなどの対応を行っているところ、警察施設を適正に維持管理していくため、より適切な警察施設の総量について検討を進めてまいります。	
16	警察施設について、建て替えではなく長寿命化を検討しないのか。		
17	駐在所に勤務する警察官が市民の話を酌み取り、パトロール等を行ってきたことにより、安全・安心な地域へと変わった事例がある。したがって、駐在所に勤務する警察官の不在時間が多くなるのは不安である。	単独勤務の交番等では必然的に不在時間が増加するほか、全国的に警察官に対する襲撃事件が発生していることから、可能な限り複数人による運用としていく必要性が認められます。 また、複数勤務化することにより、不在時間の減少を見込んでいます。	7 ～ 8
18	都市集中等の現代社会の変化を考えると、今までの機能では対応しきれなくなり、再編は仕方がないと思う。 山間部の地域でも事件や事故は多く発生しており、住民が安全・安心に生活できるよう、警察官の複数勤務による警察力を住民密着型で発揮していただきたい。	今回の機能強化により、限られた人的・物的リソースを最大限に活用しつつ、交番等の集約や柔軟な運用を含めた最適配置について検討し、引き続き地域住民の皆様の安全・安心のよりどころとして運用してまいります。	
19	地域に根差した交番の重要性について、高齢者の見守り、少年の非行防止への対応等、交番の果たす役割は大きくなってきており、福祉・教育機関・地域ボランティアとの連携を深めることで警察機能がより強化されるのではないか。		
20	要するに、交番・駐在所を減らしたいということなのか。		

21	駐在所の勤務員がいてくれた方が、ちょっとした情報も集まりやすいのではないか。		
22	駐在所について、不在時間の多さが目立ち、地域住民として不安を感じている。また、地域住民との接点が減少していると感じており、日頃から住民との情報交換を通じて、地域のちょっとした変化にも気付ける関係の構築が必要と考える。		
23	警察署で働いている人数が少なすぎるのではないか。警察本部に人数を割きすぎているのではないか。	サイバー空間における犯罪や、SNS型投資詐欺・SNS型ロマンス詐欺等の急増、匿名・流動型犯罪グループの台頭等、	7 ～ 8
24	警察署内の職員の配置・人数を見直し、地域のために地域課の警察官を増やしてほしい。	犯罪が複雑化・広域化しているため、専門性を有する警察本部の役割も重要度を増しているところです。また、警察事象の少ない小規模の警察署へ、必要以上に定員を配分することは、警察署間の業務負担の較差を更に広げることになるため、警察本部の定員を削減して警察署へ配分することは、治安情勢等を踏まえて、慎重に検討を進める必要があります。	
25	もっと警察署や交番に人をたくさん配置すれば、警察官が襲われるようなことは少なくなるのではないか。または、交番・駐在所を減らし、パトカーを増やして対応してはどうか。	人員配置の最適化により、可能な限り複数勤務とすることで、拳銃奪取等を目的とする警察官への襲撃リスクも大幅に軽減するものと考えております。限られたリソースを最大限に活用するため、交番・駐在所の再編、パトカーの再配分について検討してまいります。	
26	パトカーが配置されていないとみられる駐在所があり、事案発生時に迅速に対応するためにもパトカーの配置を検討してほしい。		
27	今後再編される警察署については引き続き分庁舎として運用されるとあるが、どのような業務が残るのか。	例として、過去、再編し分庁舎化した警察署については、	8
28	警察職員が減った場合や警察署が無くなった場合、治安維持力や住民サービスの低下、地域住民の防犯意識の希薄化、防犯活動を支援する警察官との連携が難しくなることが懸念される。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 警察署の庁舎を分庁舎として継続して使用 ・ 責任者として分庁舎長を配置 ・ 地域警察官等によるパトロール体制を確保 ・ 運転免許の更新業務等を行う担当者 	
29	警察本部の支援がいきわたるよう、複合的な拠点の設置も検討するべきではないか。	するなど、引き続き地域住民や関係機関との連携を図り、治安維持体制の保持と	

30	支援体制の強化に力を入れ、何かあった時に十分な人数が集まるようにしてほしい。	一定の行政サービスの提供を継続しています。	
31	東広島市や呉市といった中規模以上の市があるので、さらに警察機能を強化するため、何か専門の部隊を広島県の中心部に配置してはどうか。	本指針においては、今後分庁舎となる箇所について、責任者となる「分庁舎長」を配置するほか、事件・事故発生時の対応に当たる警察官を配置し、さらに住民ニーズに応じた行政サービスの提供を行うものとしています。	
32	国道2号線(東広島から竹原)について、交通量や事故が非常に多いので西広島バイパスに常駐しているような取締り部隊を置いてほしい。	行政サービスについて、代表的なものとして、運転免許証の更新業務や、風俗営業許可等の許認可業務がありますが、地域住民の皆様の利便性を考慮した上で、ニーズに応じて提供するサービスを検討してまいります。	
33	危険ドラッグについて、情報収集の強化や人を配置するなどし、取締りを強化してほしい。	今回の機能強化では、再編・最適化の効果として、重大な事件・事故等が発生した場合においても、夜間・休日の別なく、より多くの警察官を投入できるなど事案対処能力の強化を挙げています。	
34	性犯罪やストーカー事件に厳正に対応してほしい。	あわせて警察本部の部隊を含めた人員配置についても最適化等を行い、事案対処能力の強化について、検討してまいります。	
35	人身取引事案への対策を強化してほしい。		
36	学校内のいじめ問題に関する報道を見て治安が悪くなっている印象を持った。もう少し警察が介入できるようにしたらよいのではと思う。		
37	基本的に職員数が不足しているのではないかと。警察官を大幅に増員し、県内をくまなくパトロールすれば犯罪の抑止につながるのではないかと。		
38	警察本部について、東部にも拠点を設けるべきである。例えば、三原市等。		
39	隣接する警察署をはじめ、警察本部の協力も得ながら、地域防犯に尽力していただきたい。		
40	警察署の統合について、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 山県警察署と安芸高田警察署 ・ 呉警察署と広警察署 ・ 海田警察署と広島東警察署、広島南警察署 等の統合を行うべきである。 事件や事故が少ない警察署を統合し、重大な事件・事故が発生した時の対応力を強化するためである。	警察署の再編について、県民の皆様のご意見を参考として検討を進めてまいります。 「県民の安全・安心の確保」を基本方針として、事件・事故等の治安情勢、管内人口及び将来の人口予測、行政区域、管轄面積及び道路交通網、警察官の人員規模、最寄りの警察署等からの距離などを総合的に勘案し、検討を進めてまいります。 また、機能強化の方向性として、警察	8

41	竹原警察署を東広島警察署に統合してほしい。ごみ処理や消防業務も東広島市と提携しているので警察業務も統合してほしい。	活動の拠点となる警察署等に必要な警察官を配置した上で、スケールメリットを生かした重大事件・事故発生時における初動対応及びパトロール体制の強化を図ることで、地域住民の皆様の安全・安心を確保してまいります。 また、警察署の将来の在り方として、より効率的で実効ある警察活動を可能とするために、これまで以上に規模を拡大した拠点としての配置を検討していくこととしています。 そのほか、交番・駐在所の再編についても警察署の場合と同様に、事件・事故等の治安情勢、管内人口及び将来の人口予測、行政区域、管轄面積及び道路交通網、警察官の人員規模、最寄りの警察施設からの距離等を総合的に勘案するほか、勤務体制についても可能な限り複数勤務体制が確立できるように検討してまいります。
42	警察署の再編について、 ・ 世羅警察署を尾道警察署又は府中警察署へ ・ 府中警察署を福山北警察署へ ・ 山県警察署を安佐北警察署へ ・ 庄原警察署と安芸高田警察署を三次警察署へ それぞれ統合し、適切な位置へ警察署を移転してはどうか。あわせて警察本部の課等についても新設、統廃合を検討してはどうか。	
43	地域住民の反対が予想されるが、警察署の再編にあわせる形で、事件・事故の発生、住民の利用状況が少ない所等、交番・駐在所の廃止・統合も検討してはどうか。	
44	警察署の管轄について、広範な行政区域を管轄する上で、どのようにその広さをカバーしていくのか。管轄が広いと警察の目が届かないのではないかと住民の不安をどう払拭していくのか。	
45	福山東警察署の管轄内に新しい警察署を設置すれば、犯罪の抑止につながるのではないかと。	

(3) 機能強化により期待される効果について

	寄せられたご意見	ご意見に対する県警察の考え方	関連頁
46	代表電話に自動音声が入力されているが、事件・事故処理にもAI等のIT技術を導入すれば業務を簡素化できるのではないかと。	県警察では、警察署等の代表電話への自動音声案内導入のほか、近年、増加傾向にある110番通報の受理に対応するため、AIを活用した通話音声の文字起こしや、現場警察官からリアルタイムで映像を送信できる機器の整備等、先端技術を活用し、初動対応の強化を図っています。また、令和5年からスマートフォンで撮影した現場のライブ映像や画像を	9
47	先端技術の導入やDX化を進め、業務負担の軽減を図ってはどうか。		
48	映像やインターネット通信を利用した110番通報を導入してはどうか。		

49	<p>改造車や改造バイクの音が気になるが、110番通報は気が引けるので気軽に通報できるツール(メールや電話)を作ってほしい。</p>	<p>必要に応じて110番の通報者から受け取ることができる「110番映像通報システム」の運用を開始しています。</p> <p>事件・事故等、緊急を要し、警察官に現場へかけつけてほしい際は110番通報を、緊急の事件・事故以外の相談については各種相談窓口をご利用ください。</p> <p>再編・最適化と併せ、事案対処能力の強化等を図るため、AIをはじめとする先端技術の導入についても引き続き検討してまいります。</p>	
50	<p>街頭での職務質問活動を強化してほしい。隠れた犯罪を明るみにすることで、安全・安心につながると思う。</p>	<p>今回の県警察の機能強化の効果として挙げている「街頭活動等の強化」の中には、職務質問の強化も含まれていません。</p>	9
51	<p>勤務体制の見直しで不在の交番が減ることは住民にとって大きな安心につながり、街頭活動の強化は夜間等における防犯効果が期待される。</p>	<p>再編及び最適化によるスケールメリットを生かしたパトロール活動の強化により、職務質問も強化されると考えております。</p>	
52	<p>SNSで見ず知らずの人間がつながって、犯罪を行うようになってきているが、こういった犯罪については街頭活動の強化だけでは対応できないのではないか。</p>	<p>なお、近年では、刑法犯をはじめとする従来の犯罪に加え、匿名・流動型犯罪グループの台頭やサイバー空間における脅威等、新たな治安課題の出現により、街頭活動をはじめとする従来の警察活動だけでは対処しきれない諸課題に直面しているところです。</p> <p>また、従来の治安指数を示す刑法犯認知件数や交通事故発生件数はピーク時に比べ大幅に減少しているものの、近年は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行による人流の増加等に伴い、増加に転じており、その動向を注視すべき状況にあります。</p> <p>したがって、従来の街頭活動等の強化とともに、匿名・流動型犯罪グループの実態解明や取締りの強化等、新たな治安課題への対処も併せて進めていく必要があります。</p>	
53	<p>職員の働きやすい職場環境の形成については理解できない。税金の無駄遣いである。</p>	<p>本指針にもあるとおり、職員の働きやすい職場環境の形成は、職員の士気向上や優秀な人材の確保にもつながるほか、</p>	9

54	<p>人材を確保するために、福利厚生の実施は欠かせない。警察官が制服のまま堂々と町中にいる方が治安を維持する上で、より効果がある。心の余裕が町を守る力になると思う。</p>	<p>スケールメリットを生かした運用は職員のスキルアップにもつながりますので、結果として県民に対する治安サービスの向上にも資するものと考えます。</p> <p>また、少子高齢化による若者の人口減少や民間企業等の採用意欲の高まりなどから、警察官志望者の確保が厳しい情勢下において、働きやすい職場環境を形成することは、優秀な人材を確保するという点においても重要な課題となっています。</p>	
----	--	---	--

(4) その他

	寄せられたご意見	ご意見に対する県警察の考え方	関連頁
55	<p>令和7年広島県警察の基本方針には「安全・安心を県民とともに築く力強い警察」とあり、県民に何らかの協力を期待していると捉えられるが、具体的にはどんなことなのか。</p>	<p>県警察では平成15年から「安全・安心を県民とともに築く力強い警察」を基本方針として掲げております。</p> <p>趣旨として県民の皆様が安全・安心に暮らせる社会を実現するためには、協働活動が不可欠であるとともに、県民の皆様から信頼と理解を得ることのできる力強い警察が求められていることから、このような基本方針を掲げています。</p> <p>協働活動については多岐にわたり、自治体や関係機関・団体等との連携が挙げられ、具体的な事例としては、防犯ボランティア活動や地域住民の皆様による見守り活動が挙げられます。</p>	10
56	<p>新たな治安課題（サイバー犯罪、匿名・流動型犯罪グループの台頭）や特殊詐欺対策について、市民参加型のサイバー犯罪ボランティアを警察本部内に設置すれば事件を早期解決に導き、犯罪を未然に防ぐことにつながるのではないか。</p>	<p>サイバー犯罪ボランティア活動については、現在、被害防止のための教育活動やサイバーパトロール等を行っていたり、官民一体となったサイバー犯罪対策を講じているところです。</p> <p>引き続き、関係機関、ボランティア等と連携していくとともに、専門的な知識・技術をもった人材の確保・育成を推進するなどして対処してまいります。業務委託については、業務内容や人材確保の可否等を考慮し、必要に応じて検討してまいります。</p> <p>また、県警察では、サイバー犯罪捜査</p>	-
57	<p>警察官にしかできない業務とそうでない業務を分け、外部へ業務委託してはどうか。</p>		
58	<p>事故処理やパトロール業務について、民間企業へ委託してはどうか。</p>		

59	予備役制度を設けたり、一部の業務を司法警察職員ではなく事務職員へ割り振ってはどうか。	官の育成として研究機関への研修派遣や、国際犯罪捜査については、他県警との合同・共同捜査を積極的に推進し、国際犯罪捜査員を長期出張させ捜査に従事させるなど、その実務能力の維持向上に努めているところです。	
60	近年増加しているサイバー犯罪や特殊詐欺への対応の強化について、未然防止の観点から「地域ぐるみの防犯教育」等も視野に入れてほしい。	今後とも変化する治安情勢に的確に対処していくため、専門的知見・技術を有する人材の確保・育成、各種教養の実施を進めてまいります。	
61	サイバー犯罪対策や国際捜査等について、実践的な研修に力を入れてはどうか。		
62	外国人観光客が多く集まる地域の交番には、日常会話レベルの語学力がある警察官を配置してはどうか。		
63	「県警察の機能強化」(案)について、具体的な内容が示されておらず、公開したというアリバイ作りと受け取られても仕方ない。「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」で示されている施策を実効あるものにするためにも、基礎的な情報を公開することを検討していただきたい。	「県警察の機能強化」(案)については、今後の検討の方向性を示すものであり、具体的な計画等には言及していないものの、趣旨を県民の皆様へ広く知っていただき、県民の皆様目線から意見を求めるため、この度パブリックコメントを実施しました。 今後、寄せられたご意見を参考に具体的な計画について検討してまいります。	—
64	外国のスパイ活動をどのように取り締まるかは、各都道府県警にとって大きな課題である。	近年、様々な産業分野において、企業が保有する先端技術に関する情報が狙われるなど、安全保障の裾野は経済・技術分野に拡大しており、全国の都道府県警察において実態解明や取締りの強化と併せ、アウトリーチ活動による広報啓発により、技術情報流出の未然防止に取り組んでいるところです。 引き続き、対日有害活動に関する情報の収集・分析、現行法令に基づく取締り、官民一体となった未然防止策に取り組んでまいります。	—
65	防犯カメラは近年、いろいろな犯罪捜査に役立っていると思う。警察・自治体・地域住民が協力して、防犯カメラの設置数を増やしてほしい。 また、防犯カメラを設置したいが、自治体や警察から補助金等を交付できないか。	防犯カメラは、公共空間等における犯罪の抑止効果をもたらすとともに、犯罪が発生した場合の犯人の検挙活動にも極めて有効なツールです。県警察では、繁華街等の防犯対策の一環として「街頭防犯カメラシステム」を運用しているところです。	—

66	面積が広く、集落が点在するような地域で警察施設が減ると安心感が低下する。小規模の警察署や駐在所が再編されるなら、地域に防犯カメラを複数設置するなどの対策を講じていただきたい。	<p>本指針では、パトカーの効果的な配置転換や、スケールメリットを生かしたパトロール活動を機能強化の効果として挙げていますが、引き続き、関係機関等と協力しながら防犯カメラの設置促進について検討を進めていくこととします。</p> <p>また、広島県内では防犯カメラの設置等に関し、補助金を交付している自治体もあるため、補助の対象等、詳しい内容については各自治体のホームページ等で確認してください。</p>	
67	交通事故件数が減少した一方で、自転車の関係する交通事故の発生が増加しているようだ。自転車の違反行為について対策を講じてほしい。	<p>県警察では、令和6年4月に、自転車のほか、特定小型原動機付自転車をはじめとする小型モビリティの安全な利用を促進するため、「自転車小型モビリティ対策室」を設置し、自転車等の交通ルールに関する広報啓発や街頭活動を通じた指導取締り等を強化しているところ。</p>	-
68	広島県を安全・安心な県にするために、暴走族対策に力を入れてほしい。	<p>また、同年8月には、県民生活の安全と平穏を脅かすバイク等の暴走・爆音走行に対応するため、暴走族によらない暴走行為や爆音走行を重点取締り対象とした全国初となる「暴走・爆音走行対策室」を設置し、検問等による取締り、SNSを活用した情報収集等を強化しているところ。</p> <p>今後も県民の皆様の要望や治安情勢の変化に応じ、従来の犯罪を含め、治安対策上の諸課題に対し、的確な対処ができるよう、県警察の機能強化による人員配置の最適化を進めてまいります。</p>	

※ 寄せられたご意見について、趣旨を損なわない程度に内容を要約又は分割して掲載しています。

※ 具体的な内容を判断できなかったものや、「県警察の機能強化」(案)対象外のご意見等については掲載していません。

県警察の機能強化



令和 7 年 9 月
広島県警察本部

目次

はじめに

目指すべき姿・方向性	1
------------	---

1 機能強化の必要性

1 社会情勢の変化	2
2 治安情勢の変化	3
3 県警察の現状と課題	4

2 機能強化の方向性

1 5つの基本方針	7
2 警察本部・警察署等の在り方	8

3 機能強化により期待される効果

1 事案対処能力の強化	9
2 街頭活動等の強化	9
3 警察施設の維持と働きやすい職場づくり	9

おわりに

今後の展望	10
-------	----



はじめに

目指すべき姿・方向性

広島県を取り巻く社会情勢については、少子高齢化や都市部への人口集中等による人口構造の大きな変化のほか、道路交通網の発達による生活圏の拡大、情報通信技術やサイバー空間の発達等により、大きく変化しています。

また、治安情勢を見ると、刑法犯認知件数及び交通事故発生件数ともにピーク時と比較して大きく減少するなど、一定の改善が見られていますが、近年ではどちらも増加傾向に転じており、さらには、社会情勢の変化に伴う新たな治安対策上の諸課題に直面するなど、**治安情勢は依然として厳しい状況**にあります。

これまで県警察では、その時々¹の治安情勢に的確に対応するため、警察の機能強化を図ってきたところですが、**新たな治安対策上の諸課題に的確に対応し、将来にわたり高い治安水準を維持**するためには、**県警察の更なる機能強化が必要不可欠**であると考えています。

このため、**県警察の機能をより一層充実・強化し、県民の皆様の安全・安心を確保**していくため、「**県警察の機能強化**」(案)を策定し、**県警ホームページや警察署等において公表したほか、県民意見募集(パブリックコメント)や各種会議等を通じて、広く県民の皆様から、ご意見・ご要望をいただきました。**

県警察では、これらを踏まえて、この度「県警察の機能強化」を策定しました。



警察署等の施設数(令和7年4月時点)

	広島中央	広島東	広島西	広島南	安佐南	安佐北	佐伯	海田	廿日市	大竹	山県	呉	広島	江田島	東広島	竹原	福山東	福山西	福山北	尾道	三原	府中	三次	庄原	安芸高田	世羅	合計	
警察署																												
分庁舎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
交番	12	7	10	11	7	9	5	9	5	2	1	11	4	1	9	2	15	7	4	10	6	2	3	2	0	0	154	
駐在所	0	0	0	0	1	0	4	0	5	1	9	5	10	8	7	8	1	4	15	8	10	4	11	12	11	6	140	

※表記のほか、三原警察署には警備派出所1カ所あり

1 機能強化の必要性

1 社会情勢の変化

近年、少子高齢化や人口減少の進行、都市部への人口集中及び地方の過疎化、外国人人口の増加など、人口構造は大きく変化しています。

国勢調査結果を基に当県の人口を見てみると、平成10年の約288万人をピークに減少を続け、令和2年（2020年）には約280万人にまで減少しています。

更には、国立社会保障・人口問題研究所によれば、令和32年（2050年）には当県の人口は約223万人となり、約20%減少するものと推計されています。

一方で、道路交通網の発達により県民の生活圏が飛躍的に拡大したほか、サイバー空間が県民生活に必要な公共空間として定着する等、社会情勢は著しく変化しており、県警察では、これらの変化が治安情勢に与える影響を的確に捉えて、対処していく必要があると考えています。

図1 2020年と2050年の市区町別の人口推移

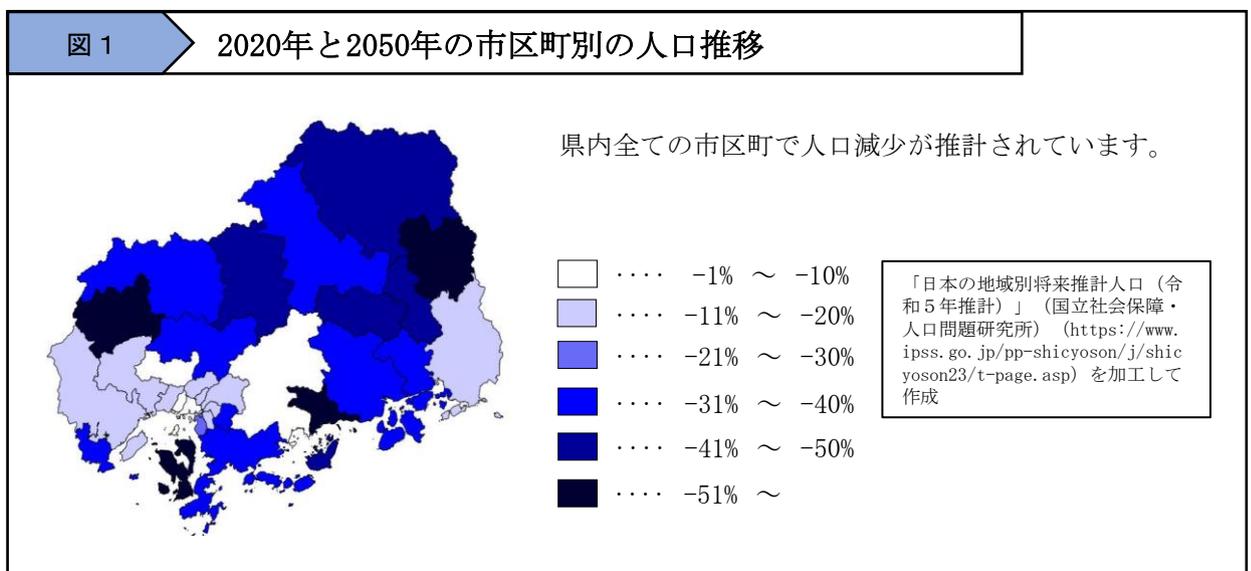
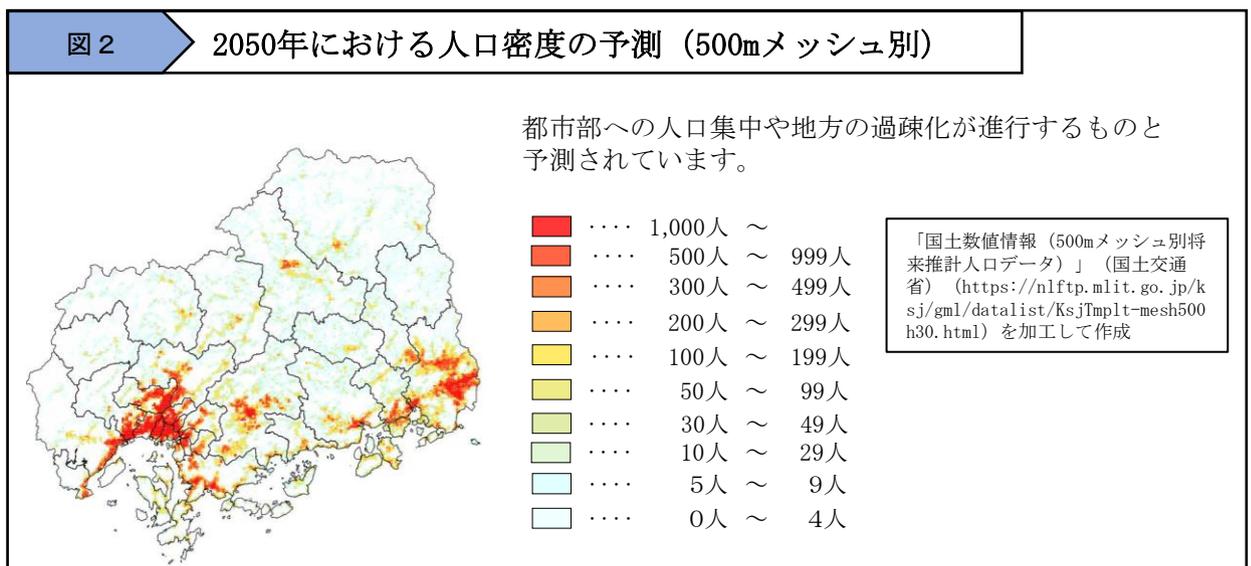


図2 2050年における人口密度の予測（500mメッシュ別）



2 治安情勢の変化

平成13年には、刑法犯認知件数が6万件に迫り戦後最多になるなど当県の治安状態は危険水域にありましたが、「減らそう犯罪」広島県民総ぐるみ運動等の官民一体となった取組の結果、令和6年にはピーク時から約75%減少しています。

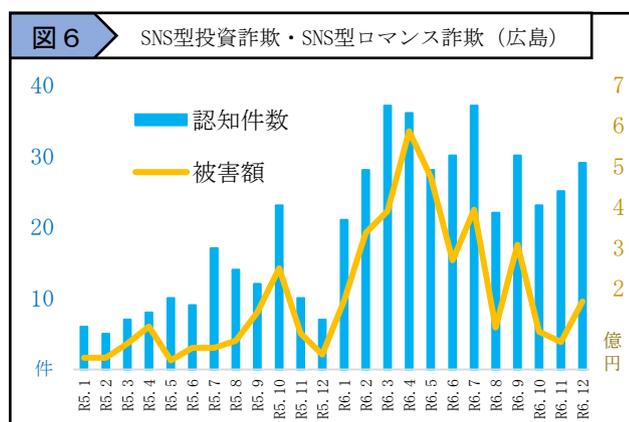
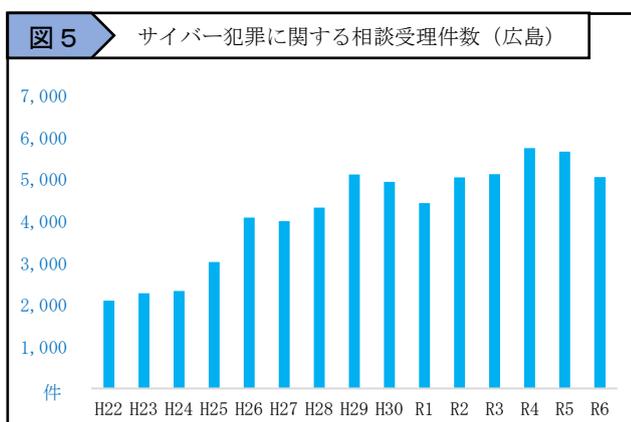
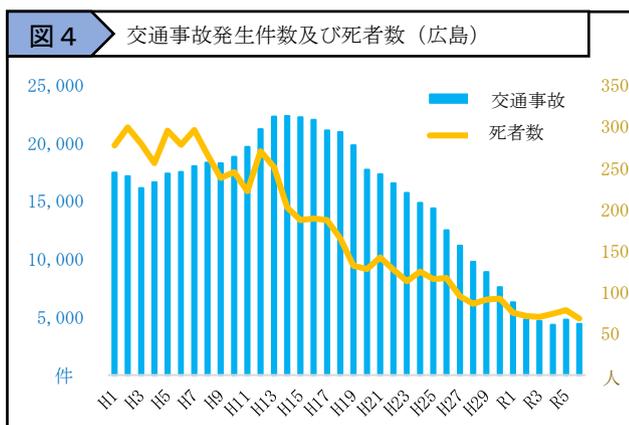
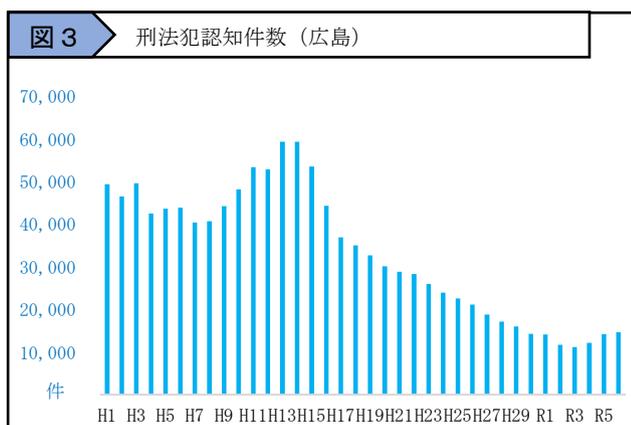
交通事故の発生件数についても、平成14年の約2万2千件から大幅な減少傾向にあり、令和6年にはピーク時から約80%減少しています。

しかしながら、近年では、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行による人流の増加等に伴い、刑法犯認知件数及び交通事故発生件数ともに増加に転じており、その動向を注視すべき状況にあります。

さらには、サイバー犯罪に関する相談件数が高い水準で推移しているほか、SNS型投資詐欺^(注1)やSNS型ロマンス詐欺^(注2)の急増、匿名・流動型犯罪グループ^(注3)の台頭など極めて深刻な情勢となっています。

県警察では、これら直面する諸課題に対して早急に手立てを講ずるべきと考えており、情勢の変化と組織の現状を俯瞰的に分析した上で、県警察の機能を強化する必要があると考えています。

- 注1：相手方が、主としてSNSその他の非対面での欺罔行為により投資を勧め、投資名目で金銭等をだまし取る詐欺
 注2：相手方が、SNSその他の非対面での連絡手段を用いて被害者と複数回やり取りすることで恋愛感情や親近感を抱かせ、金銭等をだまし取る詐欺
 注3：暴力団とは異なり、SNSを通じるなどした緩やかな結びつきで離合集散を繰り返す犯罪グループ。通称「トクリュウ」



※暫定値

3 県警察の現状と課題

① 警察署間等における業務負担の較差

現在、県警察は警察本部と26の警察署から構成されていますが、管内ごとの事件・事故の取扱件数については、地域の情勢や人口動態に応じて異なるため、勤務地によって警察官1人当たりの業務負担量に較差が生じていることから、警察力の適正配置について見直す必要があります。

警察署間の業務負担量の比較 (※令和6年中・警察官1人当たり)

管内人口	110番受理件数	刑法犯認知件数	交通事故件数
最大 約1,189人 > 最小 約375人	最大 約80.1件 > 最小 約11.6件	最大 約5.7件 > 最小 約1.0件	最大 約1.8件 > 最小 約0.5件
約3.2倍	約6.9倍	約5.7倍	約3.6倍

交番間の業務負担量の比較 (※令和6年中・警察官1人当たり)

刑法犯認知件数	交通事故件数
最大 約32.2件 > 最小 約0.2件	最大 約10.0件 > 最小 0件
約161倍	業務較差

駐在所間の業務負担量の比較 (※令和6年中・警察官1人当たり)

刑法犯認知件数	交通事故件数
最大 約24.0件 > 最小 0件	最大 約19.0件 > 最小 0件
業務較差	業務較差

② 規模の違いによる警察署の脆弱性・非効率性

署員数の少ない警察署では、刑事課や交通課等の勤務員も少ないため、重大事件・事故発生時の初動対応や、前述の諸課題への対応などに支障を来すおそれがあるほか、夜間・休日の体制が脆弱であるという課題もあります。

また、署長・副署長等をはじめ、警務・会計部門等のいわゆる管理部門の人員が署員全体に対して高比率となっているほか、人員体制の面から留置施設を運用できない警察署もあるなど、スケールメリット^(注4)を生かすことができず、組織運営上、最適とは言えない体制になっています。

注4：規模の優位性を意味します。

③ 警察施設の老朽化、狭隘化等

現在、県警察が保有している警察施設のうち、警察署は26署、交番は154施設、駐在所は140施設あります。（※令和7年4月時点）

これら警察施設は、鉄筋コンクリート造、コンクリートブロック造、鉄骨造、木造等様々ですが、耐用年数を経過しているものが多く認められます。

耐用年数の経過施設数（※令和7年4月時点）

警察署	交番	駐在所
9/26 (約35%)	65/154 (約42%)	100/140 (約71%)

減価償却資産の耐用年数等に関する省令に規定される耐用年数を基準

また、治安情勢の変化に伴う組織改編により、施設の狭隘化が著しい警察施設があるほか、女性警察官の職域拡大に伴う女性専用の休憩室やトイレの整備等も課題となっています。

④ 交番・駐在所における勤務状況

県内に約300カ所設置されている交番・駐在所では、地域住民の身近な存在として、安全と安心の拠り所となるべく、分散配置された地域警察官がパトロールや巡回連絡等の様々な活動を行っています。

しかしながら、警察官が単独で勤務する交番等では、交番等の不在時間が必然的に増加するほか、全国的に警察官に対する襲撃事件が発生しております。

警察官の受傷防止の観点からも、可能な限り複数人による運用としていく必要性が認められます。



⑤ 働きやすい職場環境の形成及び優秀な人材の確保

県警察では、仕事と私生活の両立支援を図り、ワークライフバランスの向上に努めるなど、働きやすい職場環境を形成するため、各種取組を推進しているところです。

しかしながら、夜間・休日における当直体制が脆弱な警察署では、重大事件が発生した場合や、同時に事件・事故が発生した場合には、署員を緊急に呼び出して対応している状況にあり、働きやすい職場環境を形成する上での課題になっています。

また、少子高齢化による若者の人口減少や民間企業等の採用意欲の高まりなどから、警察官志望者の確保が厳しい情勢下において、働きやすい職場環境を形成することは、優秀な人材を確保するという点においても重要な課題となっています。



2 機能強化の方向性

1 5つの基本方針



① 県民の安全・安心の確保

警察の機能強化を検討するにあたり、
事件、事故等の治安情勢
管内人口及び将来の人口予測
行政区域、管轄面積及び道路交通網
警察官の人員規模
最寄りの警察署等からの距離
等を総合的に勘案して、県民の安全・安心の確保を第一として検討を進めていきます。

② 総合的な治安維持力の向上

重大事件・事故発生時の初動対応や新たな治安対策上の諸課題への対応、夜間・休日の体制確保等のため、警察署を再編することにより規模を拡大し、スケールメリットを生かすことで、行政サービスや110番通報への迅速な対応が可能な体制を維持しつつ、総合的な治安維持力を高めます。

③ 人員配置の最適化

現在生じている業務負担量の較差を是正し、人員配置の最適化を行います。

あわせて、再編等によるスケールメリットを生かしたパトロール活動の強化や治安維持力の向上を図ります。

④ 勤務体制の見直し

交番等を集約し、可能な範囲で警察官の複数勤務体制を構築することにより、業務効率の向上が期待されるほか、現場執行力の強化及び警察官の受傷防止を図ります。

⑤ 警察施設の安全な維持管理

県下の警察署の中には、昭和50年代までに建設されたものが半数以上あり、老朽化も進んでいることから、今後、施設の大規模改修や建替えの時期が集中して訪れます。

また、交番・駐在所についても、半数以上が耐用年数を経過（令和7年4月時点）していますが、現状では交番等の建替えは年間数カ所にとどまっていることから、必要な部分改修等を実施して機能維持に努めているところです。

このような中、警察施設を一定水準で安全に維持管理していくために、より適切な警察施設の総量について検討を進めていきます。

2 警察本部・警察署等の在り方

① 警察本部

警察本部は、警察署等の警察の出先機関をまとめる役割を担っています。

警察本部についても、人員配置の最適化等を行い、治安情勢の変化に柔軟かつ的確に対応し、警察署の支援・指導機能の強化を検討していきます。

② 警察署

警察署は、都道府県の区域を分かち、各地域を管轄しています。本指針では、原則として近隣署との再編により規模を拡大し、管内の治安体制の充実を図り、新たな治安課題に的確に対処していきます。



警察署の将来の在り方として、より効率的で実効ある警察活動を可能とするために、これまで以上に規模を拡大した拠点としての配置を検討していきます。

③ 分庁舎

再編される警察署は、原則として「廃止」することはせず、旧警察署庁舎を分庁舎として引き続き運用し、警察署が取り扱う業務の一部を行います。

分庁舎には、責任者として分庁舎長を配置し、事件・事故発生時の対応に当たる警察官も配置を継続します。

また、パトカーの活動拠点とするほか、住民ニーズに応じて行政サービスを提供する等、地域住民の利便性を考慮します。



④ 交番・駐在所

交番は原則として都市部の地域に、駐在所は都市部以外の地域に設置されています。

交番・駐在所では、パトロールや巡回連絡等の様々な活動を通じて、地域住民の意見・要望等に応えるべく、管轄する地域の実態を把握し、その実態に即した活動をしています。



社会情勢や治安情勢の変化に的確に対処し、地域の治安を維持していくために、交番・駐在所の再編や勤務員の柔軟な運用も含めた最適配置について検討し、引き続き地域住民の安全と安心の拠り所として運用していきます。

3 機能強化により期待される効果



1 事案対処能力の強化

県警察の再編・最適化により警察力を最大限に発揮することが可能となり、重大事件・事故等が発生した場合においても、夜間・休日の別なく、**より多くの警察官を投入し、迅速かつ的確に対応することが可能**になります。

合わせて先端技術も活用していくことにより、情勢の変化によって生じる治安対策上の諸課題に対しても**的確な対処が可能**となるなど、**事案対処能力の強化**が図られます。



2 街頭活動等の強化



再編に伴うパトカーの再配分及び効果的な配置転換をすることで、より効果的・効率的なパトロール活動が可能となります。

また、再編及び最適化により、**スケールメリットを生かしたパトロール活動の強化**や**管内の治安維持力の向上**が可能になります。



さらに、これまで単独勤務であった交番等を複数勤務化することで、交番等における警察官の不在時間を減らし、地域住民の安心感の醸成を図ります。



3 警察施設の維持と働きやすい職場づくり

警察施設の総量を最適化することにより、維持管理コストが縮減され、今後、より効率的に**警察施設の機能維持**を図っていくことが可能となります。

加えて、職員の働きやすい職場環境の形成は、職員の士気向上や**優秀な人材の確保**にも繋がるほか、スケールメリットを生かした運用は**職員のスキルアップ**にも繋がりますので、結果として県民に対する**治安サービスの向上**にも資するものと考えます。



今後の展望

今回策定した「県警察の機能強化」は、社会情勢の変化やそれに伴う治安情勢の変化を踏まえ、情勢の変化によって生じる治安対策上の諸課題に的確に対処し、将来にわたって安全・安心な広島県を実現するため、県警察を挙げて検討を行い、取りまとめたものとなります。

県警察は、依然として厳しい治安情勢の中、本指針に基づいた機能強化を推進することにより、警察力を最大限に発揮できる組織作りに努めるとともに、**地域ボランティア、関係団体、事業者等との連携を一層深めた警察活動を展開することにより**、県民の皆様の平穏な暮らしの確保に努めてまいります。

加えて、今後も変容し続ける社会情勢や治安情勢による影響を的確に捉えて、新たな治安課題への対応に遅れを取ることのないよう、本指針の実効性等について不断の検証を行っていくこととします。

— 令和7年広島県警察基本方針 —

安全・安心を 県民とともに築く 力強い警察





1 機能強化の必要性

社会情勢の変化
人口構造の大きな変化



治安情勢の変化
新たな治安課題に直面



現状と課題
業務負担量の較差
優秀な人材確保等…



新たな治安課題に的確に対応

将来にわたり高い治安水準を維持

広島県警察の目指すべき姿

警察機能をより一層充実・強化し
県民の安全・安心を確保していく

2 機能強化の方向性

5つの基本方針

- 1 県民の安全・安心の確保
- 2 総合的な治安維持力の向上
- 3 人員配置の最適化
- 4 勤務体制の見直し
- 5 警察施設の安全な維持管理

本部



- ▶ 治安情勢の変化に柔軟かつ的確に対応
- ▶ 警察署の支援・指導機能を強化

警察署



- ▶ 拠点警察署の規模を拡大し事案対処能力を強化
- ▶ パトカー等による街頭活動等を強化
- ▶ 交番等勤務員の複数配置と柔軟な運用
- ▶ 住民のニーズに応じた行政サービスの提供

[分庁舎]

[交番・駐在所]

3 機能強化により期待される効果

① 事案対処能力の強化



最適化するため再編し警察力を最大限に発揮

- ▶ 重大な事件・事故発生時により多くの警察官を投入し迅速・的確に対応することが可能
- ▶ 情勢の変化によって生じる治安対策上の諸課題に的確な対処が可能

② 街頭活動等の強化



パトカーの再配分と効果的な配置転換

- ▶ スケールメリットを生かしたパトロールの強化や管内の治安維持力を向上
- ▶ 単独勤務であった交番等を複数勤務化して不在時間を減らし地域住民の安心感を醸成

③ 警察施設の維持と働きやすい職場づくり



- ・ 警察施設の総量を最適化し維持管理コストを縮減
- ・ 働きやすい職場環境を形成

- ▶ 警察施設の機能維持
- ▶ 優秀な人材の確保・職員のスキルアップ
- ▶ 県民に対する治安サービスの向上

▶ 将来にわたって安全・安心な広島県を実現

社会情勢・治安情勢の変化を踏まえ、治安課題に的確に対応

▶ 警察力を最大限に発揮できる組織づくり

治安課題への対応に遅れを取ることのないよう、指針の実効性等について不断の検証